

大会名 Competition	第47回全国高等学校バスケットボール 選抜優勝大会秋田県予選会女子決勝
No. M-1	Year Month Day Time 2016年 10月 30日 12:30
場所 Place	大館市樹海体育館



秋田県高等学校体育連盟
バスケットボール専門部

チームA		チームB
湯沢翔北	(30 1st 22)	秋田和洋
79	20 2nd 9	57
○	11 3rd 13	●
	18 4th 13	
	OT	

主審:Referee 正田 晋 (秋田)
副審:1stUmpire 佐々木 一也 (秋田)
副審:2ndUmpire 村越 裕悦 (秋田)
テーブルオフィシャル:Table officials
大館国際情報学院高校女子

No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F	No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F
4	×	加藤 麻里	CAP	27	5	6	0	0	4	×	福田 瑛莉香	CAP	1	0	0	1	0
5	×	高橋 果林		11	1	2	4	2	5	×	佐々木 茜		2	0	1	0	3
6	/	千葉 沙希		12	0	5	2	1	6	/	三浦 奏子		0	0	0	0	0
7	×	篠原 陽夏		23	0	8	7	4	7	×	丹 理香		8	2	1	0	2
8	×	高橋 悠佳		2	0	1	0	5	8	×	紺野 翠		6	2	0	0	1
9	×	村上 瑠奈		4	0	2	0	2	9	/	小林 佳央		10	0	5	0	2
10		高山 美瑠		-	-	-	-	-	10	/	柴田 奈波		3	0	1	1	1
11		目黒 歩子		-	-	-	-	-	11		渡辺 結羽		-	-	-	-	-
12		安藤 千遥		-	-	-	-	-	12	/	櫻庭 真子		4	0	1	2	2
13		佐々木 留夏		-	-	-	-	-	13	×	成田 陽菜		15	0	6	3	2
14	/	柴田 理央		0	0	0	0	0	14	/	高橋 美玖		8	0	4	0	2
15		鈴木 あみ		-	-	-	-	-	15		佐藤 穂乃香		-	-	-	-	-
16		佐藤 留菜		-	-	-	-	-	16	/	加藤 みのり		0	0	0	0	1
17	/	鈴木 華音		0	0	0	0	0	17		小野 彩音		-	-	-	-	-
18		伊藤 杏香		-	-	-	-	-	18		矢野 未結		-	-	-	-	-
19		高橋 愛		-	-	-	-	-	19		宇佐美 千穂		-	-	-	-	-
20		佐藤 緩乃		-	-	-	-	-	20		清水 沙耶		-	-	-	-	-
21		横山 萌華		-	-	-	-	-	21		石川 みのり		-	-	-	-	-
コーチ		樋渡 真裕							コーチ		松岡 圭一						
Aコーチ		熊谷 傳裕							Aコーチ		鈴木 玲菜						
合計				79	6	24	13	14	合計				57	4	19	7	16

※×:スター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3P* インドシュート 2P:2P* インドシュート FT:フリースロー F:ファウル

女子決勝は昨年のウインターカップ予選決勝と同一カード、全県総体優勝の湯沢翔北に秋田和洋が挑む一戦となった。

第1ピリオドから激しい点の取り合いになる。湯沢翔北は#8高橋のミドルシュートで先制すると、その後は#7篠原の高さを生かしたオフェンスで得点を重ねる。対する秋田和洋も#9小林のドライブで対抗する。しかし秋田和洋は湯沢翔北の#7高橋の高さに対応出来ず、このピリオドで3つのバスケットカウントを与えてしまう。30-22で湯沢翔北がリードして第1ピリオドを終えた。

第2ピリオドが始まると両チーム激しいディフェンスで主導権を争う。秋田和洋は#10柴田や#13成田のドライブで得点する。一方の湯沢翔北は1-1-2-1のゾーンプレスが機能し、#6千葉の速さを生かしたカットやドライブで対抗し、じわじわと点差を広げる。秋田和洋が残り4:20でタイムアウトを取るが、湯沢翔北の勢いは止まらない。#4加藤が前半だけで3本の3Pを沈めて引き離し、50-31で前半を終える。

第3ピリオドに入ると秋田和洋は激しいディフェンスからチャンスをつかむ。#8紺野の3Pや#13成田のゴール下シュートで差を縮める。対する湯沢翔北はセットオフェンスでペースを掴み、#6千葉や#9村上のドライブで確実に得点を重ねる。一時、秋田和洋が激しいディフェンスで追い上げるも、湯沢翔北は終了間際にも時間を有効に使ってオフェンスを組み立て、#4加藤が3Pを沈め、61-44で第3ピリオドが終了。

第4ピリオドも湯沢翔北はセットオフェンスで得点を重ねる。スクリーンを活用し#4加藤のカットインや、#6千葉のドライブで得点を伸ばす。秋田和洋も#14高橋のドライブやゴール下シュートで対抗するも、差を縮めることができない。秋田和洋#13成田の体格を生かしたオフェンスに、湯沢翔北の#8高橋がこの試合5つ目のファウルで退場してしまうが、流れは変わらず、終始試合をリードした湯沢翔北が8年連続16回目の優勝(前身の湯沢北時代を含む)を果たし、ウインターカップ2016の出場権を獲得した。

